

卷末資料

I. 数字で見る9つの地域の姿

II. 用語集

III. 改定までの流れ

I. 数字で見る 9 つの地域の姿

		那覇市全体	那覇新港周辺地域	那覇北地域	首里北地域	首里地域
①面積（市全体に占める割合）		3,957.00ha (100%)	257.35ha (6.5%)	442.71ha (11.2%)	360.91ha (9.1%)	248.73ha (6.3%)
人口・コミュニティ	②人口 （市全体に占める割合）	319,435 人 (100%)	12,154 人 (3.8%)	47,354 人 (14.8%)	37,776 人 (11.8%)	18,157 人 (5.7%)
	③世帯数 （市全体に占める割合）	135,532 世帯 (100%)	5,413 世帯 (4.0%)	20,460 世帯 (15.1%)	13,889 世帯 (10.2%)	7,231 世帯 (5.3%)
	④世帯人員	2.4 人/世帯	2.2 人/世帯	2.3 人/世帯	2.7 人/世帯	2.5 人/世帯
	⑤人口密度	80.7 人/ha	47.2 人/ha	107.0 人/ha	104.7 人/ha	73.0 人/ha
	⑥年少人口 （総人口に対する割合）	49,811 人 (15.6%)	1,450 人 (11.9%)	9,252 人 (19.5%)	6,452 人 (17.1%)	2,488 人 (13.7%)
	⑦高齢人口 （総人口に対する割合）	63,513 人 (19.9%)	2,315 人 (19.0%)	7,860 人 (16.6%)	8,976 人 (23.8%)	4,361 人 (24.0%)
	⑧自治会数	155 団体	6 団体	19 団体	24 団体	17 団体
	⑨校区まちづくり協議会数	12 小学校区	1 小学校区	1 小学校区	3 小学校区	2 小学校区
	⑩事業所数	18,289 箇所	867 箇所	3,010 箇所	869 箇所	632 箇所
産業	⑪従業者数	177,240 人	13,470 人	32,379 人	7,042 人	3,432 人
	⑫従業者の 多い産業	1 位	卸売業、小売業(18%)	卸売業、小売業(22%)	卸売業、小売業(21%)	医療、福祉(37%)
		2 位	宿泊業、飲食サービス業(13%)	運輸業、郵便業(21%)	宿泊業、飲食サービス業(15%)	卸売業、小売業(21%)
		3 位	医療、福祉(12%)	サービス業(他に分類されない)(14%)	医療、福祉(13%)	教育、学習支援業(19%)
土地利用	⑬宅地占有率	38.9%	45.5%	46.1%	54.4%	50.4%
	⑭基盤整備面積占有率 （土地区画・市街地再開発・防災街区の各事業）	22.4%	4.9%	76.2%	0.4%	—
	⑮D I D占有率	97.0%	92.9%	100.0%	100.0%	95.6%
都市機能	⑯売場面積 1,000 ㎡以上の 小売店舗数	21 店舗	—	8 店舗	2 店舗	—
	⑰〃の売場面積	94,106 ㎡	—	37,851 ㎡	7,111 ㎡	—
	⑱高等教育施設数	31 施設	1 施設	7 施設	—	1 施設
道路交通	⑲モノレール駅数	16 駅	—	3 駅	1 駅	2 駅
	⑳運行頻度が 1 日 30 本 以上のバス停数（片道）	347 箇所	6 箇所	48 箇所	25 箇所	31 箇所
	㉑道路占有率	16.6%	24.0%	22.8%	14.3%	16.0%
都市環境	㉒都市公園数	184 箇所	9 箇所	29 箇所	19 箇所	13 箇所
	㉓公園面積（供用開始）	196.68ha	4.64ha	21.73ha	9.34ha	17.67ha
	㉔ひとりあたり公園面積	6.2 ㎡	3.8 ㎡	4.6 ㎡	2.5 ㎡	9.7 ㎡
景観歴史	㉕都市景観形成地域	3 地域	—	—	—	2 地域
	㉖指定文化財数	175 件	2 件	53 件	14 件	55 件
	㉗都市景観資源指定件数	65 件	3 件	9 件	2 件	9 件
福祉等	㉘地域包括支援センター数	18 箇所	1 箇所	4 箇所	2 箇所	1 箇所
	㉙子育て関連施設数 （保育所、認可保育園、認可外保育園、幼稚園、認定こども園の総数）	234 箇所	6 箇所	45 箇所	25 箇所	12 箇所
防災	㉚土砂災害想定面積	477.33ha	9.98 ha	59.99ha	98.34ha	119.65ha
	㉛津波浸水想定区域面積	936.90ha	206.00ha	15.93ha	—	—
	㉜老朽建造建築物(60 年以上)	1,808 棟	43 棟	91 棟	10 棟	86 棟
	㉝自主防災組織数	82 組	3 組	13 組	10 組	9 組
公共施設	㉞市営住宅数	19 箇所	—	4 箇所	6 箇所	—
	㉟市営住宅 戸数	5,884 戸	—	586 戸	2,173 戸	—
	㊱学校施設数（小・中学校数）	53 校 (小 36,中 17)	1 校 (小 1,中 0)	8 校 (小 6,中 2)	6 校 (小 4,中 2)	3 校 (小 2,中 1)

※各地域の数値の算出方法…a.個所数等は、所在地に基づき地域別集計 b.面積は、GIS情報を用いて各地域へ分割し面積測定 c.人口・世帯数は、公表されている数値の最小単位が国勢調査調査区、年少人口及び高齢人口、産業の事業所数・従業者数は、公表されている数値の最小単位が小地域（町丁目別）であるため、地域境界をまたぐ場合は、過半の面積が含まれる地域へ集計 d.㉓の公園面積のうち、漫湖公園については、真和志地域と小禄地域へ面積を案分 e.校区数などエリアを伴う場合は、過半の面積が含まれる地域へ集計

真和志地域	那覇中央地域	那覇西地域	小禄地域	那覇空港周辺地	出典等
799.69ha (20.2%)	319.40ha (8.1%)	218.13ha (5.5%)	536.87ha (13.6%)	773.21ha (19.5%)	平成 29 年都市計画基礎調査 ※上記調査において、市の面積は平成 27 年国勢調査の数値を採用しており、P7 の市全体面積とは一致しない
90,550 人 (28.3%)	33,822 人 (10.6%)	18,619 人 (5.8%)	59,044 人 (18.5%)	1,959 人 (0.6%)	平成 27 年国勢調査（調査区集計）
38,418 世帯 (28.3%)	16,956 世帯 (12.5%)	9,578 世帯 (7.1%)	23,435 世帯 (17.3%)	152 世帯 (0.1%)	平成 27 年国勢調査（調査区集計）
2.4 人/世帯	2.0 人/世帯	1.9 人/世帯	2.5 人/世帯	12.9 人/世帯	上記②÷③
113.2 人/ha	105.9 人/ha	85.4 人/ha	110.0 人/ha	2.5 人/ha	上記②÷④より算出
13,286 人 (14.7%)	3,813 人 (11.3%)	2,112 人 (11.3%)	10,892 人 (18.4%)	66 人(3.4%)	平成 27 年国勢調査（小地域集計）
18,725 人 (20.7%)	7,954 人 (23.5%)	3,900 人 (20.9%)	9,403 人 (15.9%)	19 人(1.0%)	平成 27 年国勢調査（小地域集計）
42 団体	14 団体	11 団体	21 団体	1 団体	那覇市自治会一覧（2019 年 8 月現在）
2 小学校区	—	2 小学校区	1 小学校区	—	那覇市資料（2019 年 12 月時点）
3,333 箇所	5,138 箇所	2,180 箇所	2,030 箇所	230 箇所	平成 26 年経済センサス基礎調査
23,941 人	50,701 人	18,756 人	16,035 人	11,484 人	
医療、福祉(27%)	卸売業、小売業(16%)	宿泊業、飲食サービス業(27%)	卸売業、小売業(27%)	公務 (50%)	
卸売業、小売業(18%)	宿泊業、飲食サービス業(15%)	サービス業(他に分類されない)(14%)	医療、福祉(16%)	運輸業、郵便業(21%)	
教育、学習支援業(9%)	サービス業(他に分類されない)(14%)	卸売業、小売業(14%)	宿泊業、飲食サービス業(13%)	サービス業(他に分類されない)(11%)	
47.6%	46.9%	40.0%	48.4%	2.5%	平成 29 年都市計画基礎調査
6.8%	39.4%	61.1%	41.5%	—	那覇ぬまづくり史～那覇市土地区画整理事業記念誌～（2014 年 3 月発行） 平成 29 年都市計画基礎調査 ※割合は市街化調整区域を含む面積に対するものであり、P12 の割合とは一致しない
89.5%	100.0%	96.3%	99.4%	97.0%	平成 27 年国勢調査
6 店舗	2 店舗	—	3 店舗	—	平成 29 年都市計画基礎調査
9,551 ㎡	19,792 ㎡	—	19,801 ㎡	—	平成 29 年都市計画基礎調査
6 施設	10 施設	5 施設	1 施設	—	大学・短期大学・高等専門学校・専修学校一覧（沖縄県教育委員会・2018 年度）
—	6 駅	—	3 駅	1 駅	GIS 面測
105 箇所	48 箇所	16 箇所	59 箇所	9 箇所	平成 29 年都市計画基礎調査
16.6%	23.7%	23.4%	19.2%	5.1%	平成 29 年都市計画基礎調査
30 箇所	20 箇所	20 箇所	44 箇所	—	平成 30 年版那覇市統計書
52.35ha	7.53ha	22.20ha	61.22ha	—	平成 30 年版那覇市統計書
5.8 ㎡	2.2 ㎡	11.9 ㎡	10.4 ㎡	—	上記の②÷② （※1ha=10,000㎡）
—	1 地域	—	—	—	那覇市都市計画課（2018 年現在）
12 件	18 件	5 件	8 件	—	那覇市那覇市内指定等文化財一覧 （2019 年 5 月現在）、合計は地域指定なし 8 件含む
10 件	17 件	9 件	5 件	1 件	那覇の都市景観資源指定件数
4 箇所	2 箇所	1 箇所	3 箇所	—	地域包括支援センター及び町別担当地域一覧表(2019 年 2 月現在)
55 箇所	25 箇所	14 箇所	51 箇所	1 箇所	2019 年度那覇市子育て応援ガイド
164.54ha	3.59ha	—	21.24ha	—	国土数値地図情報（2016.3 時点）※GIS 面測
9.64ha	103.68ha	176.34ha	43.97ha	381.34ha	那覇市防災マップ（なは MAP）※GIS 面測
662 棟	750 棟	103 棟	62 棟	1 棟	平成 29 年都市計画基礎調査
19 組	11 組	5 組	12 組	—	自主防災組織の結成状況（2019 年 12 月現在）
3 箇所	2 箇所	2 箇所	2 箇所	—	平成 30 年版那覇市統計書
665 戸	623 戸	286 戸	1,551 戸	—	平成 30 年版那覇市統計書
15 校 (小 9、中 6)	6 校 (小 5、中 1)	4 校 (小 2、中 2)	10 校 (小 7、中 3)	—	平成 30 年版那覇市統計書

Ⅱ. 用語集

A～Z

DID（でいー・あい・でいー：Densely Inhabited District）

国勢調査における「人口集中地区」のことで、英訳の頭文字をとって、DIDと呼ばれています。国勢調査の基本単位区・調査区を基礎単位とし、人口密度が40人/ha以上の基本単位区・調査区が市区町村の境界内で互いに隣接し、隣接した地域の人口が5,000人以上となる地域のことを指します。

IoT（あい・おー・ていー：Internet of Things の略）

「モノのインターネット」と訳される情報通信技術の概念を指します。パソコンやスマートフォンだけではなく、冷蔵庫や洗濯機などの日常的に使用する家電も含め、自動車、ロボット、施設など様々な「モノ」がインターネットに接続され、情報伝達できるようになることを意味します。

LRT（える・あーる・てい：Light Rail Transit の略）

低床式車両の活用や軌道・電停の改良による乗降の容易性、定時性、速達性、デザイン性などの面で優れた特徴を有する人や環境にもやさしい次世代の軌道系交通システムのことです。

NPO（えぬ・ぴー・おー：Non-Profit Organization の略）

様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対して、収益を分配することを目的としない団体の総称です。収益を目的とする事業を行うことはできますが、事業で得た収益は社会貢献活動に充てられることになります。まちづくりの分野においても、社会の多様化したニーズに応える重要な役割を果たすことが期待されています。

SDGs（えす・でいー・じーず：Sustainable Development Goals の略）

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール（目標）と169のターゲット（具体目標）で構成されています。

あ行

亜熱帯庭園都市

本市が目指す、亜熱帯性気候の自然と調和し、歴史文化を感じ、多様な人々が共存する美しく親しみのある都市を指す言葉（造語）です。本市は、都市基盤や都市景観が、亜熱帯特有の自然や歴史、文化環境に調和した緑ゆたかな庭園のようなまちを目指しています。

入込観光客数

観光庁の定義によると、入込観光客とは「日常生活圏以外の場所へ旅行し、そこでの滞在が報酬を得ることを目的としない者」とされており、本市では県の統計や関係機関のデータをもとに、独自に数値を算出しています。

イノベーション

「改革」や「革新」を意味する英単語で、新しい技術や新しい考え方を取り入れて、社会的な課題を解決したりや世の中に大きな変化を起こすことなどを指す言葉です。

インキュベート施設

創業や起業を支援する施設のことです。

インバウンド

内向きに入ってくるという意味があり、旅行関連では、海外から日本を訪れる旅行者のことを指します。

ウォーターフロント

海、河川、湖沼などの水辺、水際のことを指します。

御嶽（うたき）

地域の聖地、聖域として、種々の祈りなどを捧げるところです。

オープンデータ

国や地方公共団体、事業者が保有する官民データのうち、誰もがインターネットなどを通じて容易に加工・編集・再配布などができるように公開されたデータを指します。

温室効果ガス

地球温暖化の要因となっている温室効果をもたらす気体の総称を指し、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンガスがあります。赤外線を吸収し、再び放出する性質があります。

オンデマンド交通

利用者の事前予約などに応じて運行する、地域の公共交通のことを指します。目的地や経路の自由度の高いタクシーと、定時定路線で運行される路線バスの中に位置づけられる公共交通です。

か行

井泉（カー）

自然の湧泉を利用した井戸を指します。沖縄には、古くから水に対する信仰があり、現在も、祈りがささげられている井泉が多くあります。

共同建替え・協調建替え

共同建替えとは、隣接する複数の敷地を共同で利用して、建築物の建替えを行うことを指します。協調建替えは、隣接する複数の敷地の個々の建替えにおいて、建築物の形状や外壁の色彩、壁面の位置や高さなどについて、一体性・統一性を持たせて建替えを行うことを指します。

業務継続計画

災害対応などの業務を適切に行うために策定される計画です。災害時に、行政自らも被災し、人、物、情報等利用できる資源に制約がある状況下を想定し、優先的に実施すべき業務（非常時優先業務）や、業務の執行体制、対応手順、継続に必要な資源の確保などを定めています。

減災

災害時の被害を最小限にとどめるため、事前の準備や対策を進める考え方や取り組みを指します。防災が、被害を「防ぐ」、被害を出さないことを目指すのに対し、ある程度の被害を想定した上で、その被害をできるだけ「減らす」ことを目指しています。

校区まちづくり協議会

校区内で活動する自治会、PT（C）A 及び地域で活動する個人・企業・事業所等、地域の全ての方々と構成する団体が、緩やかに連携・協力しながら地域の課題解決を図っていくことを目的に設立される組織をいいます。2019 年現在 12 校区で設立されています。

クニダ

現在的那覇市久米付近で、渡来中国人の集落のことを指します。約 600 年前に中国から渡来した、通訳や航海士などの職能をもつ人々（「久米三十六姓」などと呼ばれる）が定住したといわれる地域です。

景観資源

都市景観の形成上、重要な価値があると認められる樹木や石垣、拝所、建築物などで、那覇市都市景観条例に基づき市長の指定を受けたものを指します。選定された都市景観資源指定候補より、所有者の同意を得ながら指定しています。

交通需要マネジメント

自動車利用者の交通行動の時間、経路、手段、利用の仕方、発生源の調整などの変更を促すことにより、都市または地域レベルでの道路交通混雑の緩和を図る手法のことを指します。

代表的な例として、混雑時間帯を避けて出勤する「時差出勤・フレックスタイム」や、多くの人を一度に運ぶことができる「公共交通機関の利用」、自動車と公共交通機関を併せて利用する「パークアンドライド」などがあります。

さ行

サードプレイス

自宅（ファーストプレイス）や職場・学校（セカンドプレイス）以外に自分らしく過ごせる第 3 の居場所のことを指します。一人ひとりがサードプレイスを持てるような魅力的な都市環境の形成や豊かな地域社会づくりにも注目が集まっています。

自主防災組織

住民ひとりひとりが「自分の命は自分で守る」、そして「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えに立って、自主的に防災活動を行う組織のことを指します。

スージグワー

沖縄の方言で、路地、小道、幅員の狭い通り道のことを指します。

スタートアップピッチ

ベンチャー企業などが投資家等に対して資金調達や新規ビジネスの開拓などを目的にプレゼンテーションを行うことを指します。「スタートアップ」とは、短期間でイノベーションや新たなビジネスモデルの構築、新たな市場の開拓を目指す動きや概念を指し、一般的には「起業」や「新規事業立ち上げ」と解釈されています。「ピッチ」とは、投資家や新規顧客など不特定多数に対して短時間に行われるプレゼンテーションのことを指し、専門知識がない人にもわかりやすく伝えるということを重要視しています。

スプロール

市街地が無計画に郊外に拡大し、虫食い状の市街地を形成することを指します。

性的マイノリティ

「性的少数者」という意味で、旧来の価値観から「こうあるべき」とされる性のあり方にあてはまらない人々をいいます。本市は、2015年7月に「性の多様性を尊重する都市・なは」宣言（通称：レインボーなは宣言）を発表し、性に関するあらゆる差別や偏見をなくし、誰もが安心して暮らせる都市を目指しています。

生物多様性

生きものの豊かな個性とつながりのことを指します。生物の多様性に関する条約では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝的多様性という3つのレベルで多様性があるとしています。

た行

地域学校連携施設

生涯学習の振興と地域コミュニティづくり、本市が実施する各事業に係る地域の活動拠点としての活用など、学校と地域との連携・交流の充実を図ることを目的に整備した施設を指します。

地区計画

都市計画法に基づく制度のひとつで、それぞれの地区の特性に応じて、良好な都市環境の形成を図るため、生活に結びついた地区を単位として、建築物のつくり方や道路・公園などに関する地区独自のルールを定めるものです。

中核市

地方自治法に基づき指定され、都道府県の事務権限の一部を移譲された市を指します。本市は、2013年4月1日に中核市へ移行しました（現在の指定要件は人口20万以上となっています）。

鉄軌道を含む新たな公共交通システム

県民及び観光客の移動利便性の向上、中南部都市圏の交通渋滞緩和、低炭素社会の実現、県土の均衡ある発展を支える「骨格性」、「速達性」、「定時性」等の機能を備えた大量輸送が可能な公共交通システムのことを指します。

都市ストック

ストックとは、在庫や蓄えといった意味を持つ言葉ですが、都市ストックとは、国・地方公共団体などによって整備された道路・港湾・水道・公園などの公共施設や、住宅やオフィスビルなどの民間の建築物などを指します。

道路空間の再配分

現状の道路幅員を活かしながら、歩行者空間などの機能を向上させる取り組みのことを指します。例えば、車道部分の幅員を減らし、公共交通の専用レーンや歩道などに改めて配分することをあげることができます。

トランジットモール

中心市街地のメインストリートなどで一般車両の進入を制限し、道路を歩行者やバスなどの公共交通機関に開放することで、まちの賑わいを創出しようとする取り組みのことです。本市においては、那覇市国際通り商店街振興組合連合会が主催し、平成 19 年より実施しています。

な行

日本遺産

地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーとして、文化庁が認定するものを指します。令和元年 5 月に、本市、浦添市、沖縄県の三者で申請した『琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」』が認定を受けました。認定されたストーリーを構成する文化財は、那覇市 14 件、浦添市 10 件、共同 5 件の計 29 件となっています。

ノンステップバス

バス車両の乗降口と、バス停との段差を極力抑えることで、乗降性を向上させたバスのことを低床バスといい、ノンステップバスやワンステップバスがあります。高齢者や子供をはじめとして、すべての人が乗り降りしやすいバスです。

は行

パーク＆ライド

駅・停留所に近接した駐車場までを自動車で移動し、駐車したあと、公共交通に乗り換えて目的地へ移動することを意味しています。

バスロケーションシステム

GPS などを用いてバスの位置情報を収集し、バス停留所の表示板や携帯電話、パソコンなどに情報提供するシステムのことで、これにより、バスの位置情報を把握することができます。

バリアフリー

障がいのある人、高齢者だけでなく、あらゆる人の社会参加を困難にしているバリアを取り払い、不便なく暮らすことができるようにすることを指します。

ハンタ

沖縄の言葉で、端、崖のふち、高くてよく眺望が得られる場所を指します。

ビッグデータ

情報通信技術の進歩によって、インターネット上で収集・分析ができるようになった膨大なデータのことを指します。

樋川（ヒージャー）

岩盤の奥の水脈からかけ樋で水を引き、その前に水溜をつくってあるものを指します。

ヒートアイランド現象

都市部の気温がその周辺の郊外部に比べ高くなる現象のことです。

ヒンブン

沖縄の伝統的な屋敷に多くみられる、主屋前方に位置するついたてのような壁を指します。語源は、中国語の屏風（ひんぷん）のこととされています。目隠しの機能とともに、沖縄の魔物は角を曲がるのが苦手なため、直進して入ってこないように魔除けの意味もあります。

フリンジパーキング

都市の外縁部にある駐車場をフリンジパーキングとして位置付け、そこから公共交通や徒歩などで都心部まで移動することにより、都心部の自動車交通量の抑制を図ります。

プロムナード

歩行者用の公共空間で、散歩や回遊することができる空間のことを指します。

ポケットパーク

都市の中の憩いや休憩の用途に供する小さな空間のことを指します。

ボトルネック交差点

ボトルネック（ビンの首）の部分が水の流量を制限していることから転じて、道路の幅員や車線数などの道路機能より、当該道路への過大な需要が要因となり、交通渋滞を引き起こしている交差点を指します。

ま行

マチグー

沖縄の言葉で、小規模な店舗からなる昔ながらの商店街のことを指します。「マチ」とは、明治から大正時代に形成された市場の呼称で、市内各地に発生し、商品流通の場であるとともに、庶民の情報交換の場でした。戦後は、「マチ」の語尾に愛称である「グー」をつけ、「マチグー」の呼び方が一般的となりました。

マルシェ

フランス語で、市場、朝市などを指します。本市においても、マチグーエリアを中心に、中心市街地の活性化や商店街の魅力の発信をテーマに、定期的にマルシェイベントを開催する取組みが広がっており、市内外から多くの買い物客が訪れるなど、盛り上がりを見せています。

モータリゼーション

自動車が普及し、人々の生活で広範に利用されるようになる現象のことを指します。

モデル性の高い基幹的公共交通システム

市内の移動や、モノレールでカバーされていない地域と中心市街地をつなぐ、本市のまちづくりに寄与する基幹的な公共交通システムのことを指します。

や行

ユニバーサルデザインタクシー

車椅子や妊婦の方などの乗り降りが容易に行え、ゆとりある空間を確保したタクシーのことを指します。

ユニバーサルデザイン

世代や性別、国籍、障がいの有無にかかわらず、すべての人が使いやすいように工夫された用具・建造物などのデザインのことを指します。

ら行

ライド&ライド

公共交通などを乗り継いで移動することを意味しています。

ライフライン

英語の意味は命綱ですが、日本では、電気、ガス、水道などの生活や生命の維持に必要なものを指します。

ラムサル条約

水鳥の生息地として重要な湿地及び湿地に生息する動植物の保護を目的とした条約のことで、正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といいます。本市と豊見城市にまたがる漫湖が、1999年（平成11年）5月に同条約に基づき登録されました。

リノベーション

既存の建築物を修復し、用途や機能を変更したり性能を向上させることで価値を高めることなどをいいます。最近では、公園や広場などの公共施設のリノベーションなどとも併せて、都市環境の向上や地域再生の取り組みとしても注目されています。

6 次産業化

農林漁業者（1 次産業）が、農畜産物・水産物の生産だけでなく、食品加工（2 次産業）、流通・販売（3 次産業）にも取り組み、それによって農林水産業を活性化させることを指します。

Ⅲ. 改定までの流れ

